
発刊によせて



三井住友銀行は、2011年（平成23年）4月に発足から10周年を迎えました。当行の10年間のあゆみとその前史をまとめた『三井住友銀行十年史』が、このたび発刊の運びとなり、皆さまのお手元にお届けすることができますことは、まことに喜ばしい限りです。

本書が取り上げた期間を振り返りますと、1990年頃に始まったバブル崩壊は、わが国が戦後経験したことのなかった金融危機という大波となって、銀行経営を揺り動かしました。激動する経営環境の中で、住友銀行とさくら銀行は、存亡を賭け、さらなる発展を目指して合併を決断し、2001年4月、三井住友銀行として新たな一步を踏み出しましたが、合併後も不良債権問題への対応、自己資本の充実、政策投資株式の大幅な圧縮が最優先の経営課題となり、厳しい状況が続きました。当行グループが、かつて経験したことのないこれらの重い経営課題を克服して難局を切り抜け、1990年代後半の金融危機の中で支援を受けた公的資金を完済したのは、2006年10月のことでした。

その後も、リーマン・ショックや欧州債務危機の発生など、世界的な金融情勢の動揺が相次いで起きましたが、当行が受けた影響は、欧米主要金融機関に比べて限定的であり、むしろ相対的な優位性が高まっています。当行は、その優位性をいかしてグローバル展開を強化するなど、「最高の信頼を得られ世界に通じる金融グループ」実現に向けた成長戦略を打ち出し、力強く歩を進めているところです。

このように、歴史と呼ぶにはまだ年月の経過が浅い、合併から10年という期間の中であっても、前半と後半では、当行が置かれた状況は

一変していますが、これは、この期間が、平時の10年を何倍にも凝縮したような激動の時代であったからにほかなりません。今日、われわれが、さまざまな成長戦略に注力することが可能になっているのは、ただ時勢の変化が有利に働いたということにとどまらず、かつての厳しい経営環境の下で、難局と試練に立ち向かってきた先輩諸氏の尽力の賜物であり、われわれはこれに報いるべく、この10年間の得がたい経験と教訓を、有効に活用し、次代に引き継いでいかねばなりません。

現在、わが国は、経済・産業の再生、デフレからの脱却、東日本大震災からの復興など、多くの課題に直面していますが、われわれは、Team SMBCとして一丸となってイノベーションに挑戦し、先輩諸氏が残した足跡に、新たな成果を積み重ねることを通じて、日本経済、さらには世界経済の発展に貢献する金融グループにならなければなりません。私も、その実現に向けて、先頭に立って正々堂々と進んでまいりる所存です。

お客さま・株主をはじめ各方面の皆さまには、今後も一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2013年1月

頭 取 國 部 毅
